

助成事業実施報告書

団体名.....カリヨン タやけ荘
 代表者・役職名 氏名.....ホーム長 小久保志津子



1. 助成プロジェクト名

一泊二日 広島旅行 ～旅行を通じて経験値アップ～

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

カリヨン子どもセンターが運営する子どもシェルター(2004年開設)に、虐待などを理由に保護された子どもたちの、自立支援のニーズを受け止めるべく、2005年に「カリヨンとびらの家(定員6名・男子)」、2006年に「カリヨンタやけ荘(定員6名・女子)」を開設しました。支援者数は年間延べ700名程。子どもを真ん中に、職員、弁護士、関係機関がスクラムを組むように連携することを目指しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当ホームには虐待や貧困といった環境下で育ち、家族旅行や修学旅行の経験が乏しい児童が多く入居しています。現在も自立に向け、仕事や学業に追われる児童に「旅行」の機会を提供し、余暇活動の幅を広げ、就労・就業意欲増進を目指します。日常の生活だけでは難しい、児童の成育歴や特性を直に把握する機会とし、相互理解を深め、信頼関係構築を図ります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

期日:2017年8月27日～28日 参加人数:児童3名 職員4名
 準備段階から児童とコミュニケーションをとり、ツアーの予約方法や各所の事前学習を進めます。
 広島の名所や史跡(宮島・厳島神社・マツダスタジアム・原爆ドーム・平和記念資料館)を訪れ、歴史や戦争、土地の雰囲気を感じ、公共機関(新幹線・フェリー・ホテル)利用方法やマナーを学ぶ機会にします。
 プロジェクト終了後も折に触れて振り返り、さらに理解を深めて自立後の生活の充実を図っていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

児童:公共交通機関利用やホテル宿泊、名所や史跡を訪れ、土地の名産・名物に触れる等の様々な「初体験」を提供できました。「疲れたけど楽しかった、満足した」との感想が聞かれ、今後成人し、一社会人として自立していく上で必要な社会経験を積む機会となったと思われます。
 職員:ホーム内の生活だけではわからない各児童の特性や、経験の乏しさを直に把握できたので、今後の支援の充実につなげていきます。入居歴の浅い児童もあり、長時間行動を共にすることで信頼関係構築のきっかけとなったと思われます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

企画から実施まで期間が空き、児童の入れ替わりがあったため、職員が主体的に進めざるを得ない場面が多くありました。旅行の規模が今回のプロジェクト程の規模でなくとも、児童がより主体的に参加できる機会を設けることで今回の経験が活かされると思われます。
 法人単独では費用の捻出が難しく、定期的・継続的にこのような機会を提供していく方法を検討していく必要があります。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



OKADA
17

TANAKA
2

NOMURA
19

ROD
5

YAMAHA

アサヒ

アサヒ

アサヒ